

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2023年 6月 6日

栃木県知事
福田 富一 様

提出者

住 所 栃木県小山市横倉新400
氏 名 株式会社小松製作所小山工場
執行役員工場長 新家 伸一
電話番号0285-28-8110

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社小松製作所小山工場
事業場の所在地	栃木県小山市横倉新田400
計画期間	2023年4月1日～2024年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	建設機械・鉱山機械製造業 [2621]
② 事業の規模	製造品売上額 2831億円/年 (2022年度)
③ 従業員数	5056人 (小山+栃木)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1-①～④のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙2のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	排 出 量	別紙3のとおり t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙4のとおり		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	排 出 量	別紙3のとおり t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙4のとおり		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙4のとおり
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙4のとおり

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	別紙3のとおり t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙4のとおり		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	別紙3のとおり t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙4のとおり		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	別紙3のとおり t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	別紙3のとおり t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙4のとおり		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	別紙3のとおり t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	別紙3のとおり t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙4のとおり		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	別紙3のとおり t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙4のとおり		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	別紙3のとおり t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙4のとおり		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

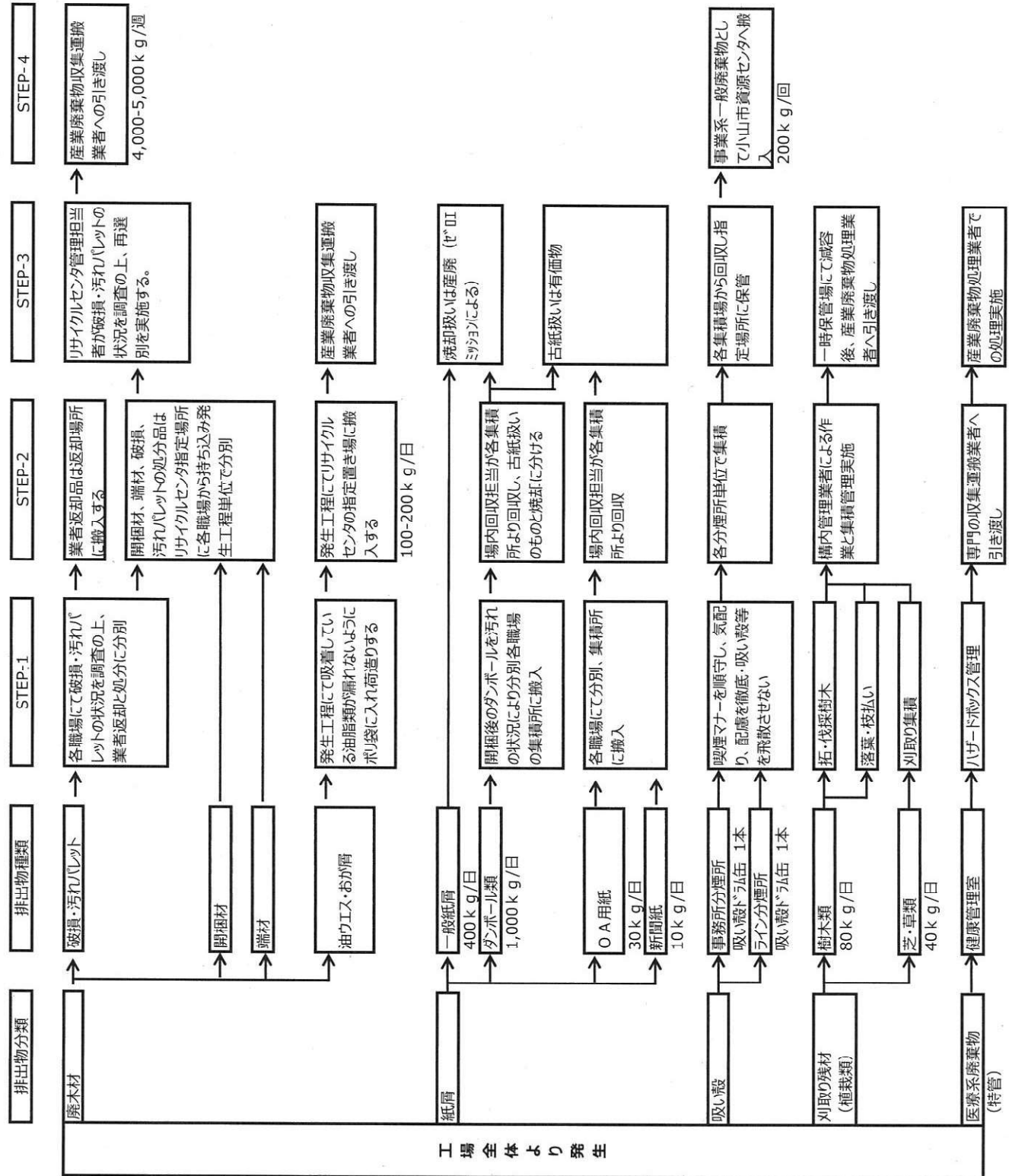
① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	全処理委託量	別紙3のとおり t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	別紙3のとおり t	t
	再生利用業者への処理委託量	別紙3のとおり t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	別紙3のとおり t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	別紙3のとおり t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙4のとおり		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	全処理委託量	別紙3のとおり t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	別紙3のとおり t	t
	再生利用業者への 処理委託量	別紙3のとおり t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	別紙3のとおり t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	別紙3のとおり t	t
	(今後実施する予定の取組)		
別紙4のとおり			
※事務処理欄			

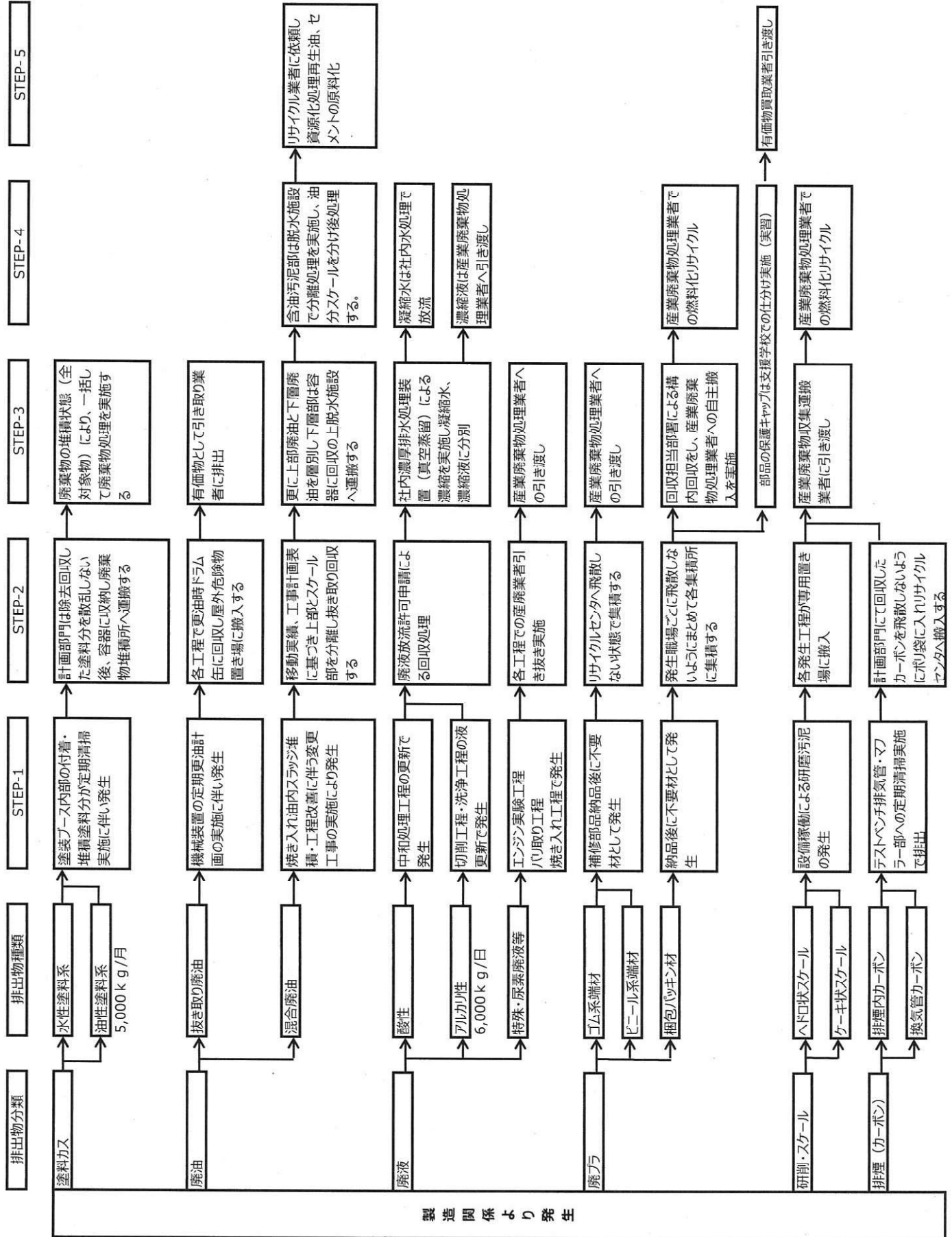
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

小山工場における排出物処理の現状について
 <現状の排出物回収フロー>

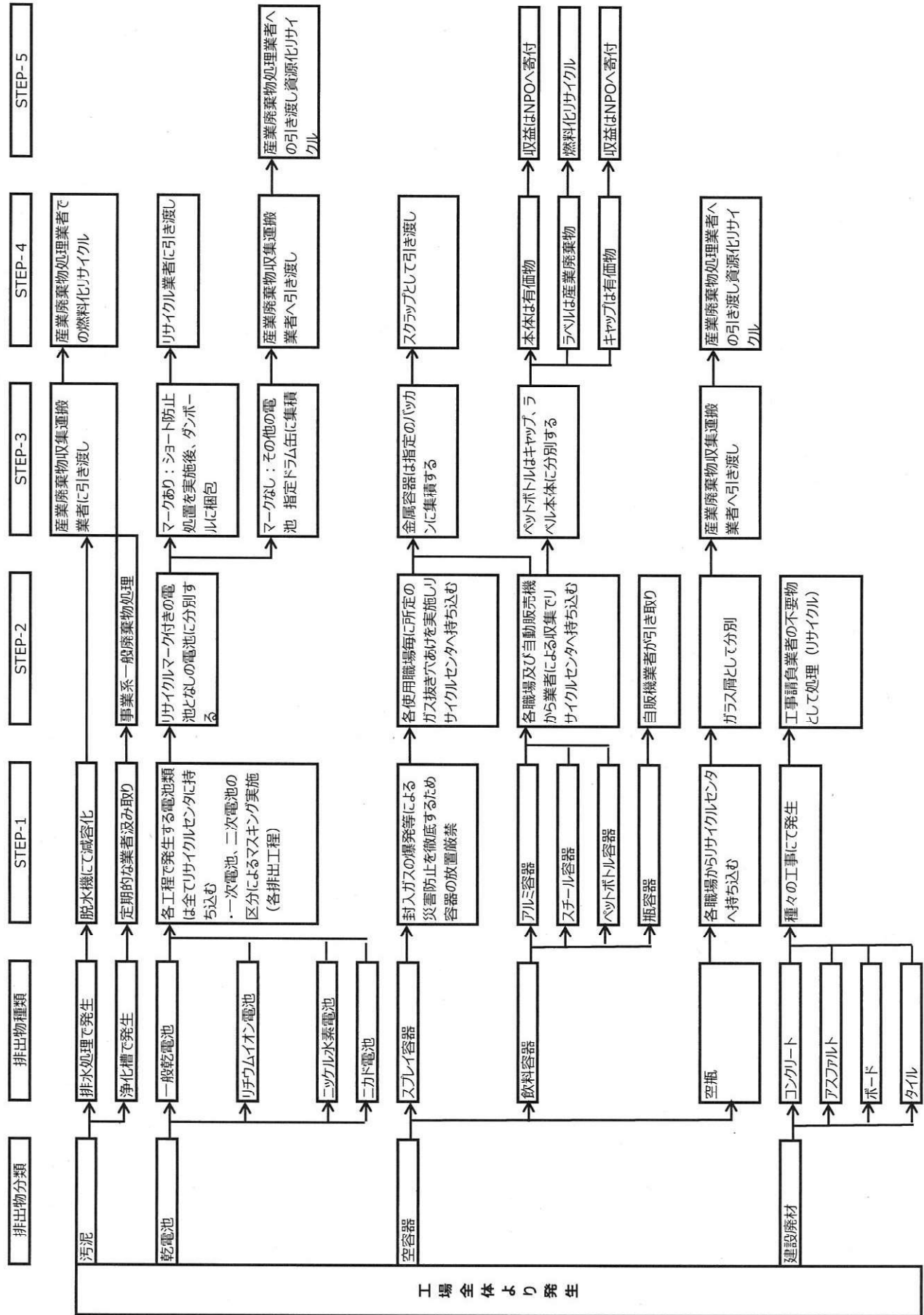


小山工場における排出物処理の現状について
 <現状の排出物回収フロー>



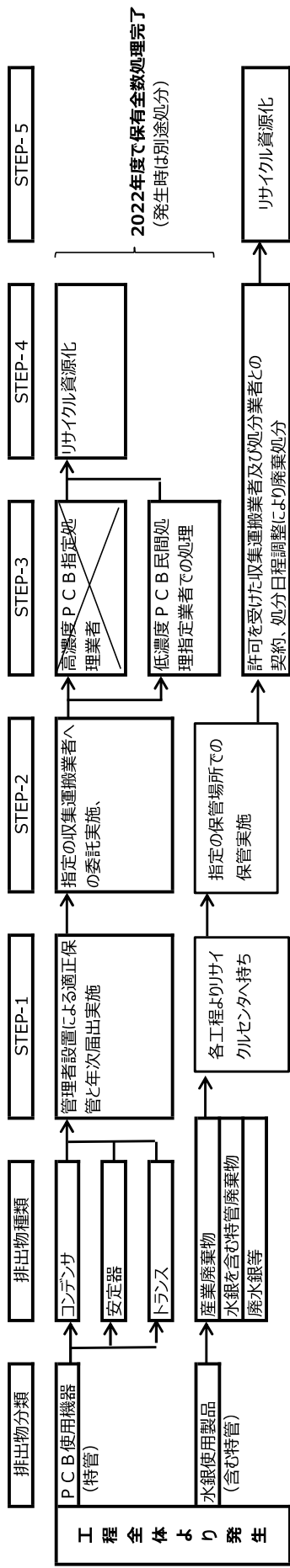
製造関係より発生

小山工場における排出物処理の現状について
 <現状の排出物回収フロー>



小山工場における排出物処理の現状について

<現状の排出物回収フロー>



産業廃棄物の処理に係わる管理体制に関する事項

(1)責任者及び管理組織図

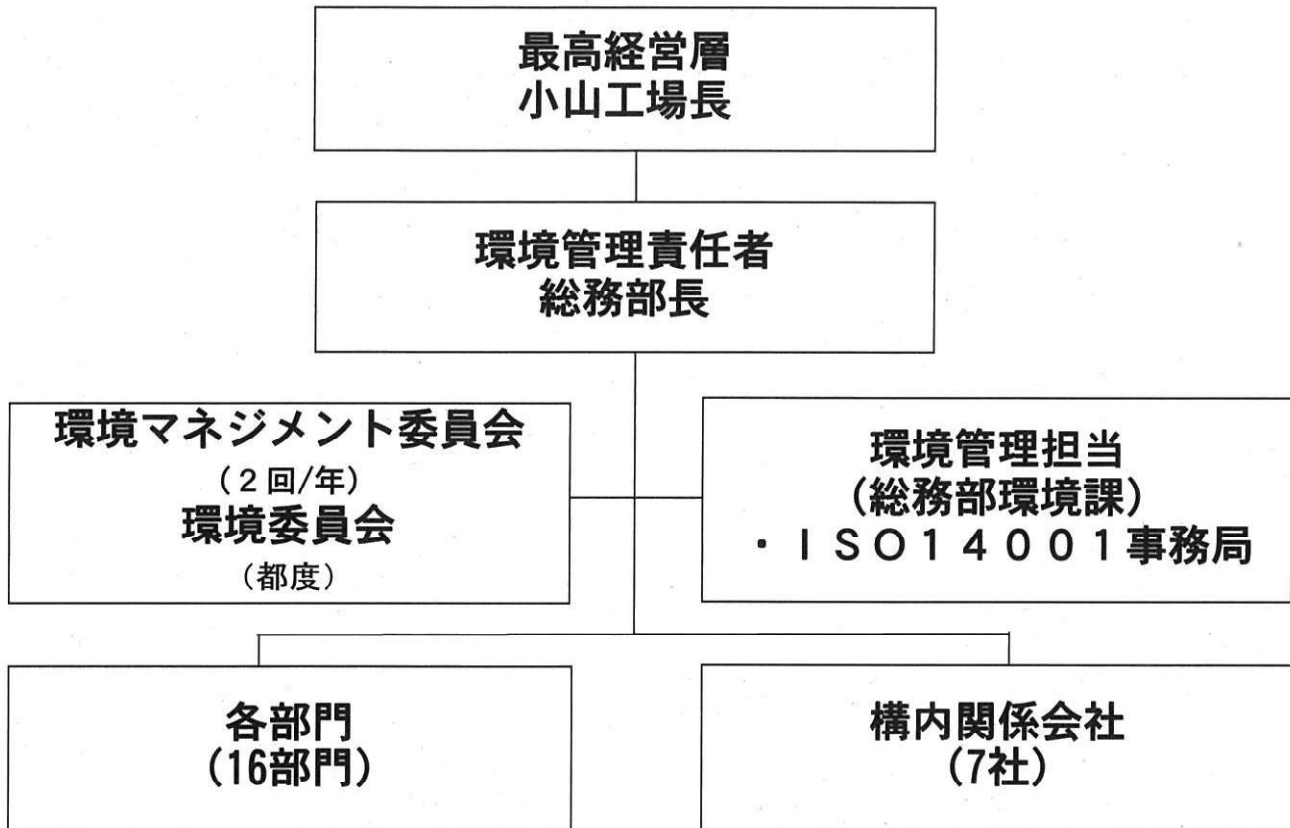
統括責任者		所 属 : (株)小松製作所小山工場	職名 : 執行役員工場長
廃棄物担当		組織名 : 総務部 環境課 組織人数 : 11人	職名 : 環境課長
役 割	工場環境管理委員会 (総務部長)	○環境管理全般に関する検討(廃棄物処理含む) 廃棄物の発生抑制、再生利用、中間処理、適正処理の推進、処理費用等の計画的な管理運営を行う上での必要事項の検討をする。 ・委員長－総務部長 ・委員－関連部署部長・G長 ・事務局－総務部環境課 ・開催頻度 都度 全体会議2回/年	
	廃棄物処理者 統括責任者 (環境課長)	○廃棄物処理方針の策定 ○工場の廃棄物管理規則の改廃 ○廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認 ○ゼロエミッション活動の推進と減量化の推進	
	廃棄物管理 担当者 (環境課長)	○廃棄物処理計画の作成 ○廃棄物管理状況の把握と改善策の検討 ○廃棄物処理施設の運転・維持管理状況の把握 ○処理業者、再生利用業者の調査、選定及び管理 ○委託契約の締結 ○廃棄物及び特別管理産業廃棄物管理表の交付・管理 ○監督官庁への各種報告 ○社員、関連会社に対する教育・啓発 ○その他廃棄物に関係する事項	

廃棄物管理組織

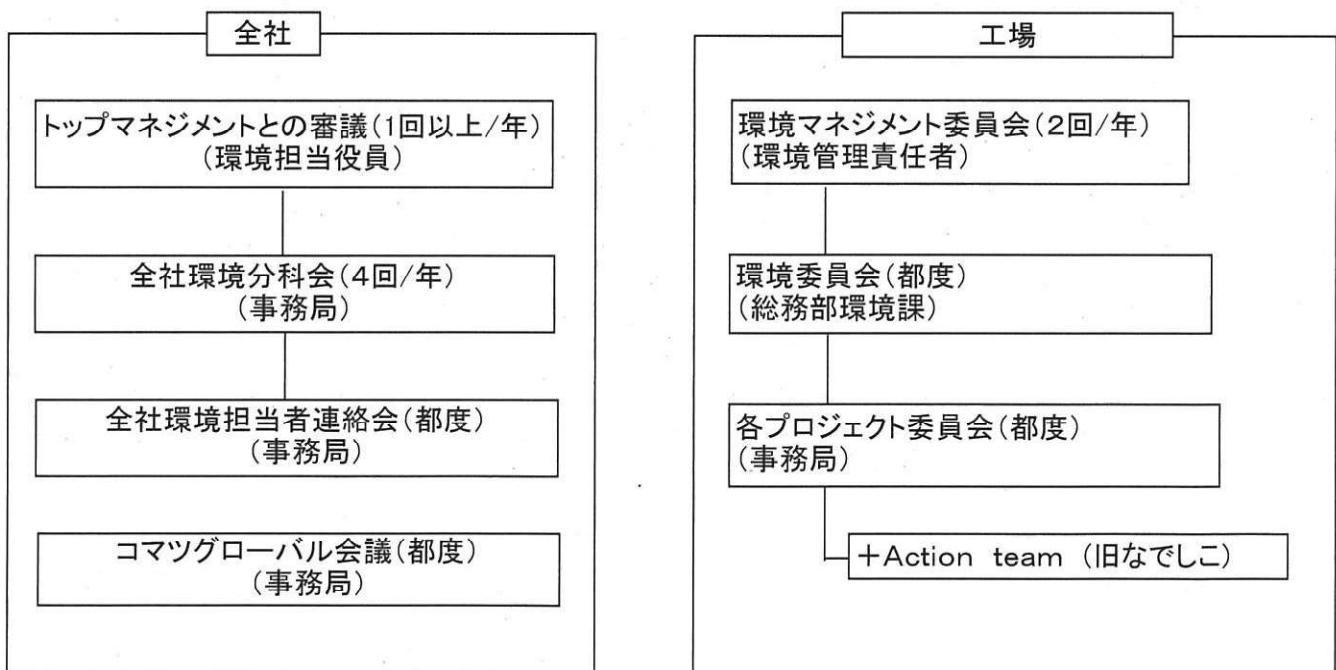
別紙2-添付①を参照

コマツ小山工場（含む栃木工場）の環境管理体制

推進組織と会議体



環境関連会議



2022年度実績値及び2023年度目標値

廃棄物の種類及び 実績、目標の別 排出・処理 の区分	汚 泥		廃プラスチック類		金 属 く ず		ガラス・コンクリー 陶磁器くず		廃油		廃アルカリ		木くず		がれき類	
	実績[t] (2022年度)	目標[t] (2023年度)	実績[t] (2022年度)	目標[t] (2023年度)	実績[t] (2022年度)	目標[t] (2023年度)	実績[t] (2022年度)	目標[t] (2023年度)	実績[t] (2022年度)	目標[t] (2023年度)	実績[t] (2022年度)	目標[t] (2023年度)	実績[t] (2022年度)	目標[t] (2023年度)	実績[t] (2022年度)	目標[t] (2023年度)
排出量	1985.7	1965.8	411.0	406.9	5.6	5.5	13.8	13.7	1773.4	1755.6	4.5	4.4	286.6	283.7	3.3	3.3
自ら再生利用を行う産 業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自ら熱回収を行う産業 廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自ら中間処理により減 量する産業廃棄物の量	1531.5	1516.2	0	0	0	0	0	0	875.8	867.0	0	0	0	0	0	0
自ら埋め立て処分又は 海洋投入処分を行う産 業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全処理委託量	454.2	449.7	411.0	406.9	5.6	5.5	13.8	13.7	897.6	888.6	4.5	4.4	286.6	283.7	3.3	3.3
優良認定処理業者 への処理委託量	454.2	449.7	307.8	304.7	0.8	0.8	0	0	897.6	888.6	4.5	4.4	100.3	99.3	0	0
再生利用業者への 処理委託量	454.2	449.7	112.4	111.3	5.6	5.5	13.8	13.7	885.6	876.8	4.5	4.4	286.6	283.7	3.3	3.3
認定熱回収業者へ の処理委託量	0	0	55.9	55.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定熱回収業者以 外の熱回収を行う 業者への処理委託 量	0	0	242.7	240.3	0	0	0	0	12.0	11.9	0	0	0	0	0	0

NO	廃棄物名称	発生部門	2022年度発生量 (ton)	これまでに実施した取り組み		今後実施する予定の取り組み				
				現在の処理方法	有効利用区分	産業廃棄物の排出の抑制に関する事項	産業廃棄物の分別に関する事項	自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項	自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項	産業廃棄物の処理の委託に関する事項
① 汚泥 ①水処理汚泥 ②汚泥 ③食堂リフトラフ	環境課 (脱水機) 製造工程 (清掃時) 食堂	環境課 (脱水機) 製造工程 (清掃時) 食堂	142.3 138.2 34.7	混合	セメントカで燃料	脱水機の更新実施 (2017年度済)	別紙4の添付①②によります。(継続活動)	該当せず	多重量式脱水機による(発生量△85%汚泥低減継続) 該当せず	産業廃棄物の処理の委託に関する事項 モロミコン活動の継続による処理業者への委託
				混合・混練	セメント原料	減量化の方法を検討 スポンジ排出分を除いて計画				
				脱水	肥料化	微生物による減量化の研究				
② 廃油	製造工程	製造工程	885.6	油水分離・中和処理 真空蒸留装置 焼却	セメントカで燃料	濃厚廃液処理の方法変更による低減 良油有価売却先の検討、分別の徹底	該当せず	真空蒸留装置運用による減量化(発生量△80%低減継続) 該当せず		
				12.0						
③ 廃酸			0							
④ 廃プラスチック ①ビニール・プラスチック 油圧ホース・タイヤ・履帯 ②塩化手袋 シート類、安全靴 ③ハンコン等	組立・物流 製造 製造・物流 全般 全工場	組立・物流 製造 製造・物流 全般 全工場	109.5 163.4 2.9	破砕・溶融固化	ボイラ燃料、鉄鋼炉燃料	梱包荷姿の改善 分別による有価物化 (3%)	該当せず			
				焼却 (マテリアル)	燃料 (ゴミ発電)	破砕減量方法の研究 (リサイクル手、ウェアの導入検討) *全工場に導入				
				破砕・粉砕	再生資源	分別解体による有価物回収量の増大				
④ 廃プラ (塗料カス)	塗装工程	塗装工程	135.1	焼却 (マテリアル)	燃料 (油水分離の助燃剤)	微生物による減量化の研究				
⑤ 汚泥 (研磨カス)	製造研磨工程	製造研磨工程	139.0	圧縮・圧縮固化・原料化	再生資源、溶高炉調整剤	油分除去方法の研究				
				4.5	中和・脱水処理	焼却 (資源燃料)	試験研究時の使用量低減			
⑥ 廃液・廃薬品類 ⑦ 木くず	試験研究 物流工程	試験研究 物流工程	4.5 286.6	中和・脱水処理	焼却 (資源燃料)	試験研究時の使用量低減				
				0.3	分別破砕	再生資源 (製紙原料、合板原料、燃料) 再生資源	梱包荷姿の改善 (海外調達品の見直し) 木材パレットの廃止検討 充電式乾電池の使用拡大による 廃棄量の低減			
⑧ 水類使用製品 (蛍光灯、水露灯)	全部門	製造工程	13.8	資源回収	再生資源	梱包荷姿の改善 (海外調達品の見直し) 木材パレットの廃止検討 充電式乾電池の使用拡大による 廃棄量の低減				
				0	埋立	再生資源				
⑩ フロントガラス 金属くず	製造工程	製造工程	5.6	分別破砕 (再生資源化)	資源回収	分別の徹底				
				3.3	破砕・粉砕	資源回収				
⑪ ①がれき類	試験研究	試験研究	3.3	破砕・粉砕	資源回収	分別の徹底				

【古紙の分別要領】 7 分別区分 (27種類) サイト内共通

△4 売却は1~10円/kgのキヤッシュバック
 2022.6.16 △5×3見直し 現品票用紙B-C、新聞紙(ホリ袋)の表裏を適記

分類	区分	紙の種類	注意事項	分別荷姿	管理
A	OA	連続用紙		ストッカー専用紙袋	<p>△2: 輸番制による共有スペース清掃担当部門及び各部門が状況により適宜、屋外の資源回収ステーションに運びます。(袋止めはホチキスで行い、カムテープは使用しないこと)</p>
	報告用紙 (コマツ規定用紙)			ストッカー専用紙袋	
	上質コピー紙			45Lホリ袋	
	再生コピー紙				
	△5 △4 現品票用紙				
	ちらし、ポスター、カレンダー				
	はがき、名刺				
	封筒				
	色の付いた紙、カラーコピー紙				
	A、B区分の紙へカラーコピーしたもの				
B	ポスト用紙				
	青焼き用コピー紙				
	ボール紙、菓子折り箱				
	ティッシュボックス				
	紙製ファイル				
	搬送紙、包装紙 (コピー紙、菓子箱用)				
	ノート類、帳票類				
	紙製手掛け袋				
	薄い紙				
	剥離紙 (テプラ、ラベル、画面テープ類)				
C	雑誌、パンフレット、カタログ				
	カタログ、雑誌、書籍類				
	厚い物				
	D	段ボール			
	①油の付いていないきれいな物				
	②油の付着した物、汚れた物				
	色の付いた物、蛍光灯保護用				
	③油が染み込んでいる物				
	E	新聞紙			
	F	シユレツダ切断紙			
G	機密文書				
	排出日程は環境課に確認				

2017.3.2 総務部環境課
 2020.9.16見直し
 2022.6.9見直し
 △3 燃やす資源は38~45円/kgの費用支払い
 △1×1:郵便印字機インクカートリッジ追加
 △2×1:宅配便の宛名ラベル(カーボン紙)追加
 △3×6:通記(処理費用、梱装廃プラ、飲料カプ、売店ごみ)

<"燃やす資源"の分別について> OYTC以外

各部門の資源ステーションより環境課が収集する「燃やす資源」は下記とします。これ以外の「物」が入っていた場合は、その場で分別するかまたは収集いたしません。ルール違反の状況によっては、小川工場の環境管理手続きによる是正処置手続きによる対応をさせていただきます。

- 【燃やす資源】
- ①使用済インクカートリッジ
 - ②菓子袋(個装廃プラ)、菓子を含んでいる紙(錫紙、ポリエチレン袋等直接菓子に貼られている紙、シート) 外箱は古紙分別、外袋は廃プラに分別です。乾燥剤
 - ③使用済み雑巾(お客様使用済み袋等)
 - ④お茶がら、食べかす、食べ残し
 - ⑤ガムテープ、梱包から剥がしたセロテープ等のテープ類、封筒のセロハン
 - ⑥カプ類の汁や貝が入っていた袋、フタ、洗っていない容器
 - △3 (個人の持ち込みは基本持ち帰り願います。)
 - ⑦割りばし、プラスチック類(泥が付着した草は不可)
 - ⑧清掃で出た綿ごみ類(泥が付着した草は不可)
 - ⑨輪ゴム、生ごみ
 - ⑩葉が入った袋類
 - △1:
 - ①郵便印字機のインクカートリッジ(メール室排出品)
 - △2:
 - ②宅配便の宛名ラベル(カーボン紙)

<投入してはいけないもの>
 ①自動販売機より購入した「飲料カプ」。
 ②売店にて購入した弁当の容器については、売店に設置されている専用回収BOXに投入すること。(推進願います) △3
 ③社外より購入してきた弁当の容器は、個人の責任で購入先(コンビニ等)の回収BOXに投入するか、自治体のごみに出してください。(コマツが資源として処分の責任を負うものではありません。)

【燃料化資源】
 区分(17) 廃プラスチックが対象
 ペットボトルのラベル、包装用ビニール、クリアシート、発泡スチロール、OPPフィルム、パウチされたもの(但し、両面テープ付きは不可)
 PPバンド等